

教育センターだより

第456号
令和4年9月2日発行
福岡市教育センター
(授業力向上支援センター)
TEL 822-2876
発行者 峯川 貴之
編集者 石井 洋安

コロナ禍の中、3年ぶりに行動制限のない夏休みとなりました。第7波の感染拡大により、平穏な夏休みとは言い難いものでしたが、先生方におかれましては有意義な夏休みをお過ごしになられたことと思います。

教育センターでは『課題研修』を中心に様々な講座を開催し、多くの先生方に、それぞれのニーズに応じた研修を受講していただきました。各学校でも、夏休みでなければできない充実した校内研修が実施されたことと思います。猛暑続きの今年の夏に蓄えられた先生方のエネルギーを、ぜひ、子どもたちのために、2学期からの実践に生かしていただきたいと願っています。

まだしばらくは、不自由で制約の多い学校生活が続くかと思いますが、その中でも「今だからこそできる教育活動」を充実させていただくため、引き続き、教育センターも学校を支援して参ります。

研修講座報告

夏季休業中に実施した講座から3つ報告します。

8月18日・19日

全市人権教育研修

今年度は、校長先生のリーダーシップの下、人権教育担当者を中心に教職員が一体となった研修が一層推進されるよう、内容を見直し、各学校が研修内容を選択する形での研修を実施しました。また、昨年度の課題を踏まえ、全体研修後の校内研修の時間も拡充しました。

各学校での校内研修はいかがだったでしょうか。校内研修については、今年度の人権教育担当者レポートに取組をまとめていただき、1月の研修で報告・交流を行う予定にしています。人権教育研修の一層の充実に向け、取組の成果や課題を明らかにしていただきますようお願いいたします。

研修実施に向け、事前の準備などご協力いただきありがとうございました。



人権教育研修に関する動画コンテンツの活用(教人材648号通知)もよろしくお祈いします!(スクールFネット/オンライン研修)



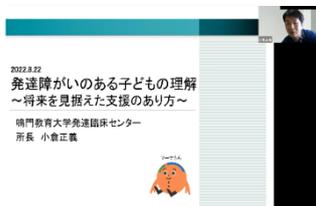
「発達障がいのある子ども」への支援

8月22日(月)「みんなで考える『発達障がいのある子ども』への支援」の研修講座をオンラインで実施しました。本講座は、「市民・保護者・教職員が、共に、障がいのある幼児児童生徒のこれからの支援の在り方について考えを深めていく」ことを目標として、平成23年度から福岡市障がい者支援センター(ゆうゆうセンター)と共催している研修講座です。

今年度は教職員、一般市民合わせて400名ほどの受講があり、発達障がいについての関心の高さを改めて感じました。

今回は、鳴門教育大学大学院 教授 小倉 正義様を講師に迎え、発達障がいのある子どもへの理解や具体的な支援方法、また子どもたちが安心して生活できる環境づくりの大切さを示唆いただきました。

受講者の感想には「自分だけでなく周りとの支援のあり方を共有して子どもたちと向き合っていきたい」「学級の環境と子どもたちとの関わり方をもう一度見直していきたい」等、今後の教育活動につながる内容が多く学びの多い研修となったと思います。



共に学ぶ小学校家庭

7月27日(水)に「共に学ぶ小学校家庭」研修講座を実施しました。

今年度は、2年間を見通した調理実習について、対面で実技講習、演習を行いました。これまで先生方の悩みの種であったコロナ禍での調理実習について工夫点を共有したり、一人実習の大切さを実感したりすることができました。

実際に児童の立場に立って、味噌汁の調理をすることで、事前の準備や実習時の支援の在り方、必要な声掛けについて実感することができたようです。

